

平成 30 年 9 月 20 日 (木), 那覇市立 A 小学校 5 学年の外国語活動の授業を参観しました。授業者は HRT の I 先生, JTE の M 先生でした。単元は What do you want?(Hi, friends! 1) で, 単元の目標は「アルファベットの太文字などに慣れ親しむ」等でした。授業は以下のように展開しました。

【導入】

○本時の内容に繋がる “Small Talk” を行う。

JTE: What did you do yesterday?

HRT: Yesterday, I walked around Rakuichi.
I found many Alphabet letters there.

JTE: What did you see?

HRT: I saw these.

JTE: One letter missing.

HRT: Guess what?

JTE: A? Z?

S: No!

JTE: What do you want?

S: “O”



【展開】

○アルファベット (大文字) の復習をする。音声教材を聞かせながら一緒に発話する。

○音声教材を聞いて, 登場人物の欲しいものを聞き取る。

○カード (アルファベット大文字) 集めの活動を行う。自分の名前のカードを集める。

What do you want?

My name is IZUMI. Z card please.

自分の名前を表すように大文字を並べる。完成しない場合は次の時間に。

○文字の形や書き順に注目させて大文字を書く練習を行う。

【まとめ】

○振り返りカードに記入する。

【授業を参観しての感想】

○授業後の研究会で知ったことですが, いつも一緒に授業をしていた JTE(日本人英語講師)が都合により突然退職したので, 今日は, 新しい JTE との 2 回目 (実質は初めて) の授業ということでした。しかしながら, 授業は十分に練られた指導案が活かされる展開となって

いました。JTE が主導していたら今日のような授業展開は難しかったのではないかと思います。担任が主導してきた授業であったからこそ、JTE の急な変更にも対応できたのではないかと思います。担任主導でこれまでの授業が展開されてきたことにまずは敬意を表したいと思います。クラスの規律がしっかりと守られていて、落ち着いた雰囲気の中で授業が展開されたことがとても良かったと思います。

○導入として A 小学校の近くにある商店などの英語の看板を見せて、どの文字が抜けているかを児童に言わせました。身近なところにたくさんの英語の文字があることに気付かせると同時に、知っている大文字の読み方（名称読み）を想起させるのによい活動であったと思います。少し残念に思ったことは DEP[O] の [O] を想起させることで終わらず、DEPO はどういう意味かまで確認するとよかったのではないかと思います。なぜかという、文字は意味を表すものであることを確認することができるからです。機械的な学習になりがちな文字指導ですが、文字も伝達の道具としての役割があることを、折にふれて示すことが大切だと思います。

○児童にとっては、アルファベットを見るのは初めてではないと思われませんが、チャンツなどを有効に活用してアルファベットの大文字を何度も練習させたのは良かったと思います。この段階の児童はアルファベットを最初から順に読むと言えるのですが、ランダムに文字を並べると読めないこともよく起こります。アルファベットを逆の順序で読ませたりするなどの工夫をしながら行うともっと良かったと思います。

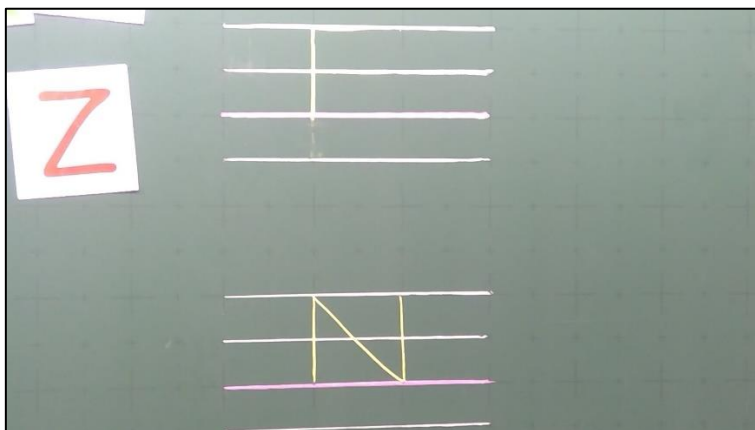
○We Can 1 の Let's listen 3 を聞かせる活動はリスニングの活動に留まらず、児童がこれから行う発話のモデルにもなっていたので良かったと思います。「何が聞き取れた」などの質問を行い、トップダウンアプローチで内容を理解させるのも良かったと思います。少し残念だったのは、この発話はどのような目的、場面、状況で行われていて、登場人物は誰なのかをもう少し説明してから聞かせて欲しいということでした。場面が分かって初めて意味の推測も可能になり、概要も理解しやすくなるものと思います。

○本時のメインの活動である「カード集め」活動を指導者がデモンストレーションをすることによって示しました。日本語の説明を通してではなく、デモンストレーションや英語の対話を通して理解させていくことが新しい学習指導要領が求める「(説明を通してではなく)言語活動をとおして指導する」に繋がっていくものと思います。ルールを理解しないと活動に入れないので一生懸命に指導者の英語を聞き、また、デモンストレーションを見ていた児童が印象的でした。

○カード集めの活動はとても良かったと思います。アルファベットの大文字を目的もなく

集めるのではなく、自分の名前をつくるために自分に必要な大文字を集めるとい活動に
していました。無目的に大文字を集めるのではなく、目的をもって文字を集めさせたことが児
童の意欲を高めたものと思います。この単元では、最終的に「アルファベットブック」をつ
くることになっています。文字指導は機械的な活動に終わることが多いのですが、このよう
な、目的を持った活動にすることによって、児童は、本当の気持ちを“Acard, please. とい
う発話に込めることができるのではないかと思います。

○アルファベット集めのあとに文字の形や書き順に注目させて、大文字を書く練習をさせ
ました。黒板で使った四線は従来型（線と線の間隔が同じ）でしたが、児童のワークシート
は新教材で採用されている型（上から 2 番目と 3 番目の間が広がっている）でした。大
文字は従来型のものが書きやすいと私は思っているのですが、この四線について、指導者が
どのような考えで臨んだのかについては質問しそびれてしまいました。



○今後検討が必要と思われる点は、**Small Talk** の扱いです。学校の近くにある英語の看板
を見せる活動は、指導案では **Small Talk** となっていました。**Small Talk** は「まとまりの
ある英語を既習表現などを使って児童に聞かせる（児童とやり取りする）」ものです。今回
の活動は **Small Talk** というよりも本時の **Introduction**(導入)の活動と位置付けたほうがよ
いのではないかと思います。

○私の見誤りもあると思います。授業後に指導者との確認をしたわけではなく、あくまで私
の主観的な感想であることをお断りしておきます。